

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホームすずな 1丁目		
所在地	長崎県長崎市愛宕1丁目11番1号		
自己評価作成日	平成22年9月23日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療法人内の病院が隣接していることにより医療体制が整っており、併設施設の管理栄養士の協力のもと、栄養面の健康管理が整っています。                  繁華街に近い場所に立地していることを活かし、ショッピングや美容室等へ利用者の要望に沿って個別の外出支援を行ったり、屋上ベランダや敷地内にある畑を活用し、季節を楽しみながら、趣味の園芸活動や地域の方達との交流を図っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>繁華街や景観地に近い場所に立地しており外出支援など利用者の要望に添った支援が行われている。併設している施設には病院等があり医療面や栄養管理面での体制が整っており利用者や家族にとって安心感がある。職員は常に明るく元気に、利用者の笑顔が多く出る支援を心がけている。職員で理念を作り直し、3ヶ月に一度は必ず利用者本位の支援ができるか検討を行っており、毎日の介護支援に役立つよう取り組んでいる。また、職員は地域の行事に参加することはもとより地域の婦人部を招き介護研修を実施するなど地域との交流も盛んな事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に沿って、地域の中でその人らしい生活を支えていくという観点から、地域住民の方達との交流を進めている。また、利用者1人ひとりの「その人らしさ」について考えながら、実践に繋げられるよう話し合いを行っている。	理念にある「あなたらしく」を実践するために、本人にとっての楽しみを把握し、笑顔が多い生活となるよう支援している。また理念の「地域とのかかわり」として、地域交流のために年1回おやつバイキングを企画実施し、近所の方々に喜んでもらうなど、職員は理念のもとに日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	婦人部の会合に出席して交流できる機会をつくったり、利用者と共に周辺の散歩や地域のスーパー等への買い物等を行ないながら、気軽に挨拶を交わしたり、地域の中へと外出する機会をつくっている。	地域とは防災訓練の合同開催や精霊流しのもやい船を作る場として駐車場を提供するなどしている。婦人部からの依頼で「認知症の理解」についてのセミナーも行い、事業所と地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、認知症の方への理解や支援の方法等について話し合ったり、電話等の相談にも丁寧な対応を心掛けて説明を行なっている。婦人部の会合で「認知症の理解について」話しをさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議の場で行事や外出支援等の報告、事故やヒヤリハットの報告等を行っており、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	規定のメンバーで開催しており議題は事業所や利用者の報告である。地域代表から散歩道のハチの巣の情報を得ると共に、蛇が出るなどの情報を受け、草刈りをするなど意見を活かして支援に役立てている。なお、会議の開催は過去1年間は5回の開催に留まっている。	昨年に比べ回数も増えるなど改善されているが、運営推進会議の開催については概ね2ヶ月に1回の実施となっており年間6回の開催となるため、今後とも実施に向けて努力されることを希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの職員に出席してもらい、意見や地域の情報を聞きながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市担当課からはインフルエンザの地域情報があり、事業所からは認定申請の際に連絡、相談等している。また、年に1回、介護相談員を受け入れており、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なうことの弊害を職員が理解しており、全員が委員として身体拘束ゼロを目指している。エレベーターは自由に使用出来るようにして、日中の玄関の施錠も行っていない。職員が工夫し連携して目配り、気配りを身に付けられるよう努めている。	内部研修では、事例検討を実施しており、身体拘束のない支援に向けて話し合い、認識を共有している。利用者は自由に移動できるよう日中は施錠せず、見守りで対応している。玄関は夜間のみ防犯のために施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会を持ち、職員同士がお互いに注意し合えるような関係や環境を目指している。法人内で接遇委員会が設置されており、法人全体の問題として取り組んでいる。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を持ち、将来的に必要と思われる人については関係者と話し合いをおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行なって理解していただけるよう努めている。ご利用者、ご家族の不安に配慮し、疑問点が浮上した場合には、いつでも説明を行なう旨伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター前に意見箱を設置しているが、日頃よりご要望等があったら遠慮なく言ってくださるよう伝えており、口頭でお聞きする事が多い。その都度話し合いをもって解決出来るように、また誠意のある対応が出来るように努めている。	利用者や家族の意見、要望は面会や電話などで聞き、把握したことについては職員間で話し合い対応している。これまでに洗濯物間違いを無くすため職員が2人体制で行うようにしたり、利用者への言葉使いも家族の意向に沿うよう改善するなどした例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から会議の場以外でも、意見を出してくれるよう話をしており、出来るだけ多くの職員の意見や提案を聞いて、運営に反映出来るよう努めている。	職員との個人面談があり、待遇面での話し合いをしている。相談があれば幹部で図り結論を出し解決している。これまでに浴室や脱衣所の手すり増設など職員の意見を反映して改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員の意見を聞きながら、職員がやりがいや向上心を持って働くことが出来るよう職場環境や条件の整備に努めている。会議や勉強会に出席する職員の手当て支給や介護職員の交付金の申請を行ない、給与のUPを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行ないながら、外部研修の機会を確保しており、担当看護師や法人内の他職種の協力のもと、内容を検討しながら定期的な施設内の研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の地区研修会に出席し、お互いに学び合う機会をつくっており、意見交換や情報交換を行ないながら、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会って出来る限り話しを聴く機会をつくり信頼が得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話を出来る限り聴き、困っていること要望等を受け止め、信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めることは難しいが、他のサービスも含めた選択肢ができるよう説明を行なうなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや洗濯たたみなど一緒に行なっている。会話の時間を大事にし、時には人生の先輩として、悩みを相談したり教をえを乞うたりしている。また一日一日を一緒に楽しく過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時には、受診結果や最近のご様子等について報告し、ご本人にとって必要な事は何か考え、協力をお願いしながら支援している。面会時には一緒にゆっくり過ごしていただけるよう見守っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話やご家族から情報を得て、支援出来るように努めている。友人や知人の方の面会がっており、面会に来られた方との時間を大切にしている。外出にはご家族の協力も得ている。	馴染みの美容室の利用や、趣味の習い事に出かけている。近所の人や友人の訪問、女学校時代の友人からの電話や手紙の交換なども支援している。自宅の風通しを兼ねて出かけた際に近所の方々とは会話するなど関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者が一緒に集う場をつくっており、様子を見ながら孤立する方がいないように気を配っている。会話には職員も一緒に入って、談話を楽しんだり、共同で行なえる作業やレクリエーションを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や他施設などへお見舞いに行き、会う機会をもっている。何か出来る事はないかなど、ご家族からの話も努めてお聞きするようになっている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話を聞きながら出来るだけ一人ひとりの希望や意向の把握が出来るように努めている。困難な場合は、ご本人の表情や様子から推測したり、ご家族から話を聞いたりしている。ミーティングの時間を作って職員間で情報を共有し検討している。	職員と利用者が一対一になれる機会をつくり、思いや意向を聞いている。表出困難な方には表情で検討したり、好きな音楽を流し様子を見たりしている。また、利用者によっては、体の傾きで判断するなど職員間で情報を共有し、プランに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活を共に過ごす中でご本人とお話しながら、またご家族や知人の方にお話を伺ったりして情報収集を行ない、職員間で情報を共有するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやチェックシート、申し送りノートなどを活用して現状が把握出来るようにし、職員間で情報の共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めてアセスメントを行ない、毎月のカンファレンスで話し合っ介護計画に反映している。担当者以外でも職員同士で気付き等意見を出し合い、本人面会時などにご家族の話を聴いて思いを受け止められるよう努めている。	毎日の記録や担当者から状態の変化を聞き、月1回カンファレンスを行っている。その後、本人、家族、担当医の意見も反映させながら、概ね3ヶ月に1度見直している。ただし、個々の記録に介護計画が日々実践されているかどうかの記録が記載されていない。	介護計画の日々の記録は、評価、見直しに繋がり、次の計画へ反映されるべきものであるため、書式を含め検討されることを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日チェックシートに個別の記録を記入し、ケース記録には実践の記録や様子等を記入しており、その他気付きなども含めて申し送りノートに記入して、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行なっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お話を聞きながら、出来る限り要望に沿った柔軟な対応が出来るよう努めている。毎日現場のスタッフで反省等のミーティングを行なって、支援に活かせるよう取り組んでいる。			

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ガーデニング、さつま芋の植え付け、収穫など自治会の方やご家族の方の協力を得て交流を楽しんでいただいている。また自治会の精霊船のお花作りに参加させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に沿って、出来るだけかかりつけ医の継続を支援している。ご家族が付き添えない場合は、職員が付き添って受診し、主治医への情報提供を行ない、受診結果をご家族へ報告している。	契約時に説明し、同意を得て主治医を愛宕病院に変更してもらっているが持病に関してはかかりつけ医で受診する場合がある。主治医が1日2回来訪され24時間体制である。歯科医も1週間に1回往診がある。家族が付き添った場合は受診結果の報告があり互いに情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している担当看護師や当直看護師に毎日情報を伝えて相談し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には出来るだけ詳細な介護サマリー等の情報を提供している。入院後は、病棟看護師、地域連携室の職員に情報を伝えたり、退院に向けて情報交換や主治医への相談等行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、ご家族の方全てに説明し、同意を得ている。個別のケースごとに事業所で出来ることなどの説明を行ない、担当看護師も交えてご家族と話し合っている。	これまで看取りの実績はないが、契約時に看取りの指針について同意を得ており、その都度医師や看護師、家族、職員で話し合っている。職員全体でも看取りについて周知のため話し合われている。ただし、指針が現状と不一致な部分があるため見直しが必要である。	看取りについて、具体的にどこまで事業所で実施するのか、または併設の病院で行うのか等ははっきりとした方向性を示し、家族に同意を得ることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は法人内で行なわれる救急救命の研修を順次受けている。また、担当看護師の協力を得て勉強会を行なっており、職員全員が実践力を身に付けられるよう努力しているが、まだ十分とは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の避難訓練を行なっており、地域の方にも参加してもらって協力体制をとっている。	消防署指導で避難場所はベランダとなっている。建物単位で年に2回の訓練を実施しており、そのうち1回は夜間想定で実施している。自治会には回覧板で知らせており、訓練には自治会役員及び近隣住民が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語や丁寧語に気を付けたり、その方にとって馴染みのある言葉などを尊重して対応している。職員間で情報を共有しつつ、内緒にしてほしいという利用者の気持ちや、プライバシーには十分配慮するように心掛けている。	個人情報や所定の場所に保管している。職員からは入社時に守秘義務の誓約書を取っている。トイレ誘導など声の大きさに配慮し、利用者のプライドを損ねない支援に心がけている。朝の申し送りでは、利用者が特定できない様配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう際には、利用者の意思を必ず聞くようにしている。出来るだけ促しではなく？の形で尋ねるようにしている。意見を言うことが出来ない方は、体調や気持ちの安定などに留意し、表情を見ながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合せて食事時間をずらしたり、できるだけ一人ひとりのペースを大事にケアを行っており、買い物などの希望にも沿えるよう努めているが、十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時だけではなく、身だしなみには気を配っている。外出時にはお化粧をしたり、普段と違う服を選んでおしゃれしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士や厨房の協力のもと、利用者一人ひとりの好みを尊重して提供している。その日の献立に合わせて利用者と一緒に食器を選んだり、盛り付けなどを行なっている。	1階の厨房で調理し、盛り付けは利用者も一緒に行っている。キザミ、ソフト食も対応している。畑で作った野菜や家族からの差し入れも利用者の楽しみとなっている。おやつは各ユニットで手作りしており、行事食など給食会議で検討し実施している。また、食事の時はテレビを消し音楽をかけ食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を提供している。食事や水分摂取量を記録し、医師や管理栄養士に相談しながら、栄養ドリンク・ソフト食・刻み食など利用者に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守りを行ったり、自分でできない方には、毎食後口腔ケアを行なっている。義歯は洗浄剤を使用して清潔にしている。個別に歯科医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄ケアを行ないながら、その度職員間で話し合い、その時の利用者の状態に合わせたケアができるよう支援している。	トイレで排泄できるようチェック表を基に支援している。トイレの数が少ないため職員用や他階のトイレも利用している。また、居室でのポータブルトイレの使用もある。退院後にオムツからリハビリパンツ、パッド使用に軽減した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をたくさん摂ってもらうことを第一に、主治医に状態を報告し、利用者にあった薬を処方してもらっている。野菜が不足しがちな方は、管理栄養士に相談し、食物繊維の多い飲み物やバナナなどで便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな方には体調を見て、本人の希望に沿って実施しているが、職員不在で安全面が確保できない場合は実施できない事もある。拒否気味の方は無理に勧めず、様子を見ながら声掛けを工夫したりして、必ず本人の意思を確認してから実施している。	基本的には毎日入浴できる。入浴拒否の場合は無理せず様子を見ながら本人の意思を確認して誘導している。しょうぶ湯、竹炭、一番風呂など入浴を楽しむことができる支援を心がけている。また、入浴介助は極力同性介助を行うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で動けない方は、身体の負担や生活のリズムなどを考えて、ソファや居室で休んでもらっている。眠気の強い方は覚醒を促し、軽い運動など働きかけている。寝具や居室の温度調節などで安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース記録にファイルして確認、把握出来るよう努めている。受診や薬をセットする際は説明書を見て、薬剤師との情報交換も行なっている。症状が変化した時は、すぐ主治医に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸、編み物、書道、音楽、ドライブ、買い物、散歩、おしゃべりなど個々の好まれることや楽しみ等について職員間で情報を共有して、その時に必要な支援が行なえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿った外出が出来るよう努めているが、希望に沿えない時もある。ご家族の協力を得ながら対応している。屋上ベランダにベンチを置いて気分転換に活用している。	天気の良い日は敷地内の駐車場や畑まで散歩をしている。利用者によっては自分で近くのスーパーマーケットまで買い物を兼ねて散歩をしている。季節には桜や菖蒲の花見、おやつを持って近くの公園に出かけるなど外出を支援している。	



グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と話し合っ、必要な時にはすぐ出せることを説明し、了承を得て事務所に預けてもらっている。希望する方は高額にならないようお願いして所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族に宛てた手紙やハガキは職員が預かってポストに投函している。電話をかけたい時は職員と一緒にかけたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節感を取り入れた飾り付けを行ない、居心地よく過ごせるような工夫をしている。テレビの音量や会話の声の大きさ、カーテンの開閉、朝昼晩の室内の温度調節、ソファの配置、時には職員の制服の色などにも配慮している。	24時間自動換気設備が設置され十分換気されている。また、テレビ等の音量も適度に保たれている。職員は赤い色が苦手な利用者に配慮し制服の色を変えるなど工夫している。リビングには行事や季節感のある飾り付けを行うなど居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外の場所にもソファや椅子を置いて、憩える場所をつくっており、状況に応じて配置等変えている。屋上ベランダでもゆっくり過ごせるよう、日よけを取り付けベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者が思い思いに家具や馴染みの物、好みの物を持ち込まれている。ご家族と相談しながら模様替え等の支援も行なっている。	居室にはテレビ、冷蔵庫、ソファ、写真など馴染みの物品が持ち込まれており居心地良く過ごせるようにしている。ポータブルトイレは使用后清掃しており、臭気のない居室となるよう支援している。家具はシーツ交換時に拭いているが、居室の掃除は金土日に行っており、毎日実施していない。	居心地良い居室となるために衛生上の観点からも最低でも一日に一回は居室の清掃を行うことを希望する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は車椅子の自操が出来る広さがあり、廊下や浴室、トイレには安全の為に手すりが設置されている。浴室入り口にのれんをかけ、トイレはわかりやすいように表示板を付けている。利用者の状態の変化に沿って検討、工夫を続けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホームすずな 2丁目		
所在地	長崎県長崎市愛宕1丁目11番1号		
自己評価作成日	平成22年9月23日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療法人内の病院が隣接していることにより医療体制が整っており、併設施設の管理栄養士の協力のもと、栄養面の健康管理が整っています。                  繁華街に近い場所に立地していることを活かし、ショッピングや美容室等へ利用者の要望に沿って個別の外出支援を行ったり、屋上ベランダや敷地内にある畑を活用し、季節を楽しみながら、趣味の園芸活動や地域の方達との交流を図っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に沿って、地域の中でその人らしい生活を支えていくという観点から、地域住民の方達との交流を進めている。また、利用者1人ひとりの「その人らしさ」について考えながら、実践に繋げられるよう話し合いを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人部の会合に出席して交流できる機会をつくったり、利用者と共に周辺の散歩や地域のスーパー等への買い物等を行ないながら、気軽に挨拶を交わしたり、地域の中へと外出する機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、認知症の方への理解や支援の方法等について話し合ったり、電話等の相談にも出来るだけわかりやすく丁寧な対応を心掛けて説明を行なっている。婦人部の会合にて「認知症の理解について」を話をさせてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議の場で活動報告・事故・ヒヤリ等の報告している。身体拘束等の取り組みや考えも報告。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回地域包括支援センターの職員に出席してもらい、地域の情報及び意見を聞きながら協力関係を築いている。介護相談員の受け入れもしており、相談によりその後の協力も得ている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを全職員目指しており、身体拘束を行なう事の弊害理解している。日中の施錠はしていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士接遇に関してはお互いに注意し合う環境を作れるよう努めている		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で職員は学ぶ機会を得ている。関係者とも将来的な必要な人材についても話合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行なって理解していただけるよう努めている。ご利用者、ご家族の不安に配慮し、疑問点が浮上した場合には、いつでも説明を行なう旨伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター前に意見箱を設置しているが、日頃よりご要望等があったら遠慮なく言ってくださるよう伝えており、口頭でお聞きする事が多い。その都度話し合いをもって解決出来るように、また誠意のある対応が出来るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけ多くの職員意見や提案を聞いて、運営反映出来るよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境や条件の整備に努め、会議や勉強会の手当て支給や交付金の申請し給与の向上を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整行ない外部の研修機会を設けている。担当看護師や専門職の協力のもと施設内研修お実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の地区研修会に出席し、お互いに学び合う機会作り情報交換も行ないサービスの質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会う機会を出来るだけ多く聴く機会を作り信頼を得られるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話しを出来る限り聞く。困っていることや要望等を受け止め信頼していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援の見極め難しいが、他のサービスも含めた選択肢ができるよう説明はしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや洗濯物たたみ等、一緒に行ない会話の時間を大事にしている。毎日を楽しく過ごせるように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に最近の様子や受診等の結果を些細な事も伝えるようにし、状態把握をしていただけるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会もあり、外出時は家族の協力得ている。電話の取次ぎ等も随時行ない、自宅への外出支援も行なっている場合もある		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、食事、体操、おやつ等など利用者が集まれるよう場をつくり、会話の中には職員も間に入り談話等楽しんでいる。共同や個別レクレーション工夫している。利用者同士の相互訪問もあり、見守り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も病院にお見舞い行ない、ご本人と会う機会をもっている。また、ご家族からの電話があった時にも、話しを伺ったりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からや、ご家族様からの情報を基に、スタッフ間の情報の共有に努め、意向に沿える事が出来る様努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握と同様に行なうと共に、日常の会話等のコミュニケーションをより多く持ち、情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個々のペースを尊重し、知り得た情報を申し送りや個々のカルテに記載し、スタッフが共有出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケア、申し送り、スタッフ間の情報の共有を常に怠らない様にし会話の内容や気付きをモニタリングや定期会議プラン作成へと反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を略式せず、些細な日常の出来事にも着眼点をもち記載を行なっている。見直しに関しては申し送り等を用いミニカンファランスを行なうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に目配り気配りを怠らず、その時々においての状況判断が出来る様、常に念頭に柔軟さを持ち今後も要望に応じた支援が出来る様に努める		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源として、スーパー商店街を利用し、入居者様の意向や希望に沿え又心身の調和を保つと共に、提携病院の協力の元体調管理を行ないつつ支援を行なっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医や希望に沿った受診を行なってはいるが、ご家族様付き添い不可の場合は、介助費の同意の元、付き添い支援を行なっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師、当直看護師と常に相談等を行ない、指示意見の元適切な受診、看護を受けられる様支援を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、病院関係者と面会、電話連絡を行ない常に情報の交換及び共有を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針に関しては入所時より説明を行ない、ご家族様の理解同意がある。ご家族様やかかりつけ医と話し合う中で方針を共有しつつ、チーム支援を行なっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の施設内研修、外部開催の講習会への参加。日々のナースとの連携や指導を受ける中でスタッフ全員のレベル向上に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体としての防火マニュアルや緊急連絡網を基に昼夜設定の非難訓練を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人様の現状に合わせた声の大きさやトーンに配慮し、職員同士が気をつける様心掛けていますが時として、配慮に欠ける時がある為徹底を怠らない様にする		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴する事を第一とし、出来るだけ自己決定が出来るような声掛け、働きかけをし実践出来る様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿える様、会話やしぐさの中からのくみ取りを大事にし実践している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室への外出支援等を行なっている。年中行事や行楽外出等にいつもと違うオシャレをし気分新たな装い支援を行なっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは実施していないが、盛り付ける際のお皿や卓上の工夫を行ない、配膳、下膳おやつ作りを一緒に行なっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理した献立の元、状態変化等その都度相談、報告し早期改善を行なっている。又メニューに対する不満もその都度管理栄養士と検討改善を行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の能力に応じた支援及び訪問歯科の往診も行なっている		



グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録をとり、排泄パターンの把握と活用に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を及ぼす影響の理解をしつつ、排便状態、水分量を個別に記録し個々の状況に応じた対応をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の好みの湯加減や時間帯を出来る限り可能に対応しているが、安全確保の部分において、職員不在にて困難な場合は、希望に沿えない場合が生じる事がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望やその時々状況に合わせて、家具や照明等にも配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性に対する理解を確実なものとする為に、内服薬の効能・効果及び副作用注意点は、個別カルテ巻末にファイルし、常備把握・確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の能力を活かしつつ自発的に「したい」という気持ちを尊重すると共に、行楽ドライブ商業施設、馴染みの公園、思い出の地への外出支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設車又は公共交通機関、タクシーの利用許可を得、地域及び周辺施設への外出、近隣への外出支援を行なっている。		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との連携により、常備事務所へお小遣い程度の預かりを行っており、金銭管理の大事さを含め、支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取次ぎ支援を行ない、居室内限定ではあるが、携帯電話の使用を可能にし、現在使用者あり。季節の便り程度の手紙のやり取りか実行していない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室、居室、共有スペースの清潔に心掛け、共有スペース及び玄関は、季節の飾りつけを行ない、四季の変化、心地よい空間作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り不満のない様に御本人様の居場所作りの配置に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様・ご家族様と相談しつつ馴染みの家具や生活に必要な物を揃えている。衣替えや希望も踏まえて模様替えの支援も行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせ、丁寧過ぎず、且つ解り易さの工夫をし、今後も状況変化に合わせ、その都度工夫改善を行なっていく。		